


(基盤科目)

科目名	研究方法特別演習Ⅳ 英語名：Special Seminar on Study MethodⅣ	必修/選択	選択必修	
		単位数	2単位	
		担当教員	古壕 典洋	

【授業概要】

博士（教育）の学位取得を予定している対人関係の専門職が、教育実践上の課題を省察し探究しながら、教育実践研究として学位論文をまとめていくことを目標に、本科目では、教育実践の省察や探究に必要な研究方法を取りあげて検討する。はじめに、対人関係専門職にとって意味のある量的研究や質的研究とはなにかを検討する。次に、これらの研究方法では括りきれないものとして、学習者自身の実践の省察、改善された実践の実施、さらなる省察という「実践と省察のサイクル」をとりあげ、さらに、学習者自身に加えて同僚や組織、社会の改善をも展望する「アクションリサーチ法」もあわせて検討する。

以上の検討を踏まえたうえで、対人関係専門職の学習者が、自らの博士（教育）の学位論文にふさわしい研究方法を選びとり、研究計画を立てる作業を行う。

【キーワード】

量的研究、質的研究、省察、アクションリサーチ

【授業の到達目標】

複数の研究方法の基礎を理解したうえで、自らの実践や職務上の課題の探究にふさわしい研究方法を、自ら選択できるようになることを到達目標とする。

【教育の方法】

スクーリングの実施【あり】 スクーリングのメディア受講【可】

【授業計画】

回	内 容
1	オリエンテーション
2	社会人大学院生にふさわしい研究方法
3	受講者の研究テーマの確認と研究方法
4	社会人院生の論文指導と量的研究・質的研究
5	アクションリサーチ
6	ケーススタディ
7	量的研究：アンケート調査
8	量的研究：フォーカス・グループ
9	質的研究と研究計画をめぐる講義とディスカッション
10	質的研究：インタビュー調査とグラウンデッド・セオリー・アプローチ
11	調査結果の分析
12	論文にまとめること
13	研究方法の選択と組み合わせ
14	研究計画の報告とディスカッション

15	まとめと課題
試験	
【履修にあたっての準備・履修上の注意点】	
指定したテキストを読み、理解を深めておく。テキストについては初回に指示する。	
【スクーリングでの学修内容】	
スクーリングでは、学修の初期に、授業の目的や学修の概要を知り、この科目を通じてなにを目指すのかを学生と教員が相互に確認するために行う。さらに、学修の終期に、学修のまとめとしてもスクーリングを行う。	
学修の初期のスクーリングに関しては、事前に現在考えている研究テーマと、それにふさわしいと考える研究法とのつながりを調べておく。スクーリングでは、量的研究と質的研究、およびアクションリサーチ、ケーススタディの説明を行う。スクーリング後は、研究方法の特徴や違いを確認し、自分の研究テーマにふさわしい研究法を選びとることができるようになることが望まれる。	
学修の終期のスクーリングに関しては、インタビュー調査、参与観察、グラウンデッド・セオリーなどの説明を行う。受講者は事前に、学位論文の研究計画案を立てておく。スクーリングの後半では、研究計画案を報告し、検討し合うことで、研究テーマと研究法との関係性を深く理解する。スクーリング後、各学生は計画書に基づいた実践研究に入る（進捗によっては、途中で計画書の内容を実践してもよい）。	
スクーリングはこの2つの時期を含み、合計4コマ6時間以上をめぐり行う。	
【評価方法】	
合否については、研究計画・方法に関するプレゼンテーション・レポート（50%）、科目修得試験（50%）で評価する。	
【教科書】	
三輪建二『わかりやすい省察的実践論：実践・学び・研究をつなぐために』医学書院、2023年 S・ウォレス『教師がまとめる研究論文：量的研究・質的研究・アクションリサーチ』鳳書房、2020年 （*その他に必要な文献は初回に指示する。）	
【参考図書】	
三輪建二『おとなの学びとは何か：学び合いの共生社会』鳳書房、2018年 M・スター、I・ラシュトン『教師の省察的実践：学校教育と生涯学習』鳳書房、2018年 S・ウォレス『教師の能力開発：省察とアクションリサーチ』鳳書房、2018年 D・ショーソン『省察的実践者の教育』鳳書房、2017年	
【教員メッセージ】	
「この研究法で大丈夫か？」という疑いを持ち続けることは、研究を進めていくうえで大切だと思います。方法を探究することは、自分自身を見つめ、他者と対話し、実践と向き合うことを意味するからです。本演習では研究方法を深く理解し、自分にとってふさわしい研究法を見つけだすことを目指します。	
【備考】	
特記事項なし	